

当研究所 経営支援部では、後継者の育成を目的としたセミナー「KER 経営者養成スクール」を毎年開催しています。同スクールでは経営計画の策定方法を体系的に学んでもらい、自社の計画づくりを実践できるカリキュラムを提供しております。

今年度で第12期を迎える同スクールは、これまでにのべ179社・200人の方々に受講いただきました。本コーナーでは、スクール卒業生の近況や今後の事業展開等をご紹介します。



株式会社 川崎植木

専務取締役 **川崎 年洋 氏**

【プロフィール】

出身地

鹿児島市

経歴

志学館高等部～
東京農工大学農学部～
株式会社富士植木～
高原建築諮詢(上海)
有限公司～
株式会社松竹園～
株式会社川崎植木

愛読書

植物に関する本、「論語
と算盤」ほかビジネス書

座右の銘

生きているうち
はたらけるうち
日のくれぬうち
(相田みつを)

自己PR

皆さまと、鹿児島をもっと
暮らしやすく、明るく楽しい
花と緑にあふれた街にし
ていきたいです。

貴社の沿革を教えてください

弊社は、私の父が東京から戻ったのち、1971年8月に、主に室内向けの観葉植物のレンタル（貸植木）を行う「グリーンサービス（旧社名）」を創業したことが始まりです。その後、屋外を対象とした造園の設計・施工も手がけるようになり、事業を拡大しました。

現在では鹿児島市内はもとより、北薩地域、南薩地域、大隅半島、宮崎県南部を主な営業エリアとしているほか、東京都内のホテルの貸植木もコーディネートしております。

貴社の強みについて教えてください

弊社は2021年8月に創業50周年を迎えます。これまでに約50年という年月を生き抜いてこられたことは、お客様から信頼していただき小さな一歩一歩を積み重ねてきた結果だと思えます。これからもお客様から選ばれる、信頼していただける、真面目で正直な仕事に取り組んでいきたいと思えます。

弊社では「植物」であれば屋内と屋外を一体的に、トータルで提案・施工することができます。全国には室内向けの貸植木か、屋外向けの造園か、いずれかに特化もしくは重点を置いた会社がほとんどです。そのような中で当社のように屋内から屋外までを高次元で手がけている会社は珍しいと思えます。今後も「植物に関することなら川崎植木だよね」と言っていただけるよう「植物に関するワンストップサービス」をより多くのお客様へ提供できるように努めて参ります。

現在最も力を入れていることは何ですか？

いただいた話は断らない

舞い込んできたお話は、当社がこれまでに手がけたことが無いことでもお断りすることなく取り組むようにしております。

お客様が当社へご相談される内容は、「客観



本社工屋外観(上)、盆栽棚(下)

的に見て当社にできそうな仕事しか無い」と考えております。お客様から実際にご相談をいただき、施工してみると「これまでに手がけたことがない」だけであり、「当社にできないことではない」ことばかりです。

また、現場でスタッフが仕事の引き出しが増えることを直に実感することは、スタッフ自身の高揚感にもつながり、プラスの効果しかないように感じます。

舞い込んできた話を断らないということについて、仕事とは少し異なる話ですが、とある業界紙の方から「ちょっとしたコラム欄のようなものを書いてみないか」と声を掛けていただいたことがありました。しかし、まだ私自身鹿児島へ戻って日が浅かったこともあり、その時はやんわりお断りしたのですが、その後同じ話をいただけることはありませんでした。そのような経験もあり、せっかくだいたお話は断らないようにしています。

知名度の向上

知名度の向上策も常に考えております。当社の社名は「川崎植木（かわさき うえき）」なのですが、社名を目にしていながらも「川崎園芸」や「かわさき しょくぼく」と言われることが多々あります。

「植木屋」という単語は一般的に浸透しているようですが、「屋」が取れて「植木」となると、なじみのない方が多いようです。少しでも多くの方に正式な社名を覚えていただきたく、イチョウのマークに「KAWASAKI UEKI」と入れたロゴを現在2台の幌車の後部に入れております。今後も車両の更新時には同様のロゴを付ける予定です。



会社ロゴを入れた車両

業務改善を進める

社内の事務面では、造園部で見積もり請求に関するクラウドサービスを導入しました。まだ慣れの必要な部分もありますが、現場以外の負担を減らすべく、ほかにも業務改善に役立つ良いものがあれば積極的に導入を検討したいと考えております。

今後は社内の書類や資材等の整理整頓も今以上に進め、業務の効率化を図らなければならないと考えております。

また、将来的には自動運転やパワーアシストスーツ等の先端技術を導入できれば、今以上の生産性を確保できるのではないかと思います。

情報発信に注力

造園部門では、従来の法人メインから個人のお客様への展開に取り組んでおります。これまでは公共事業の仕事の比率が多かったことや、積極的に個人の方へのアピールを行っていませんでしたため、「個人の方のお庭の仕事もやっています」と話すと、「意外だ」という反応をされることが多いです。

そのため、近年は直接お会いする機会のある方には個人のお庭の管理（草取りや、剪定など）も行っていることを説明させていただいております。

地道な取り組みではありますが、KER 経営者養成スクールを通して知り合った方から仕事の依頼をいただいたこともあります。



Instagramでの情報発信

また、可能な範囲でホームページやInstagramでも情報を発信しております。自分たちが当たり前と思っていることも、発信しなければ相手に伝わっていないと今さらながら思い知らされる日々です。

今後の事業展開はどうお考えですか？

オフィス環境作りの一助に

"働く環境改革"のために、事業所等の環境改善の一助となるような植栽の提案をこれまで以上に進めていくつもりです。

経済産業省では健康経営^注を推進しており、同省がまとめた「健康経営オフィスレポート」では、健康経営における快適性を感じるオフィス環境作りをしている例が紹介されています。オフィスに植栽を取り入れることで、従業員は植物や土から五感を通じて刺激を受け、その結果リラックスでき、ストレスも緩和されるということが書かれています。

一例として、海外の巨大企業Amazonの"Amazon Spheres"では大きな温室のようなワークスペースに4万本以上の植物を育てているようです。このほか国内ではメガネで有名なJINSが運営している会員制ワークスペースの"Think Lab"という施設があります。ここでは利用者の仕事に対する集中力を高めるために明確な意図をもって植物を配置しています。

弊社の事例では、コールセンターの室内で一日中働くスタッフのために、室内でも自然を感じられる観葉植物の設置・メンテナンスをさせていただいているお客様がいらっしゃいます。この事例の場合はスタッフの声が上層部へ届けられて、植物の設置に至りました。

今後このような働く人のための植物空間や、積極的に利用するための植物空間のニーズが今以上に高まることは確実だと思います。植物

注)「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

会社概要

法人名 株式会社 川崎植木
所在地 鹿児島市本名町1113番地
設立年月 1977年2月
資本金 2,000万円
事業内容 造園工事、庭園管理、個人邸のお庭管理、観葉植物等レンタルグリーン、その他植物に関するサービス

沿革

1971年8月 グリーンサービス創業
77年2月 有限会社 川崎植木設立
96年6月 株式会社 川崎植木へ改組

現在に至る

経営理念

花と緑をこよなく愛し、自然と人間の調和を大切に考え、都市の生活環境に憩いと潤いを与え、花と緑で快適な文化を創る。

のプロとしてそれらのご要望に応えられるような様々な角度からの提案・サービスの提供ができるよう研さんして参ります。

KER 経営者養成スクールを受講して

KERの経営者養成スクールでは経営に関するいろはを体系的に学ぶ機会をいただきました。また立場は違えど、各々の会社の未来を担い事業に取り組んでいる方々と知り合うことができ、感謝しております。KERの皆様、このような機会をいただきまして、誠にありがとうございました。